

令和6年5月21日  
東京都病害虫防除所

## 令和6年度 病害虫発生予察情報 注意報 第1号

病害虫名： 果樹カメムシ類  
(チャバネアオカメムシ)

対象作物： ナシ、ブドウ 等

### 1 注意報の内容

- (1)対象地域 都内全域  
(2)発生量 多

### 2 注意報発令の根拠

- (1) チャバネアオカメムシのフェロモントラップの誘殺数は、4月第4半旬までは、おおむね平年値と同等であったが、その後誘殺数が増加し、同月第5半旬で44頭が誘殺され、同月第6半旬から5月第3半旬にかけても45～110頭が誘殺されており、いずれも過去10年間の同期間において最多となった(図1)。
- (2) チャバネアオカメムシの予察灯の誘殺数は、4月第4半旬までは、おおむね平年値と同等であったが、その後誘殺数が増加し、同月第5半旬では14頭、第6半旬では39頭が誘殺され、いずれも過去10年間の同期間において最多となった(図2)。

### 3 防除対策

春に結実したサクラやクワなどの実が今後減少すると、果樹カメムシ類が果樹園に飛来する危険性が高まる。

- (1) 早期に袋がけを行う。果実が肥大して袋に接するまでは袋がけの効果が高い。
- (2) 多目的防災網(目合9mm、クロス入り)を展開できる園では、早く設置する。
- (3) 果樹園への飛来が認められたら、表1の防除薬剤を散布する。
- (4) 飛来量は薄暮期から多くなるので、農薬散布は夕方か早朝に行うようにする。

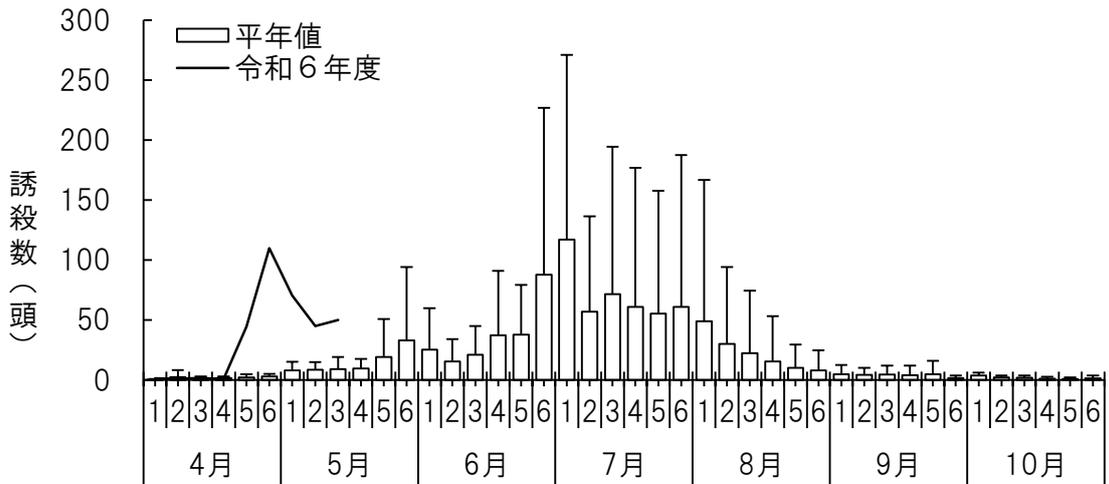


図1 フェロモントラップによるチャバネアオカメムシの誘殺数推移 (立川市内)

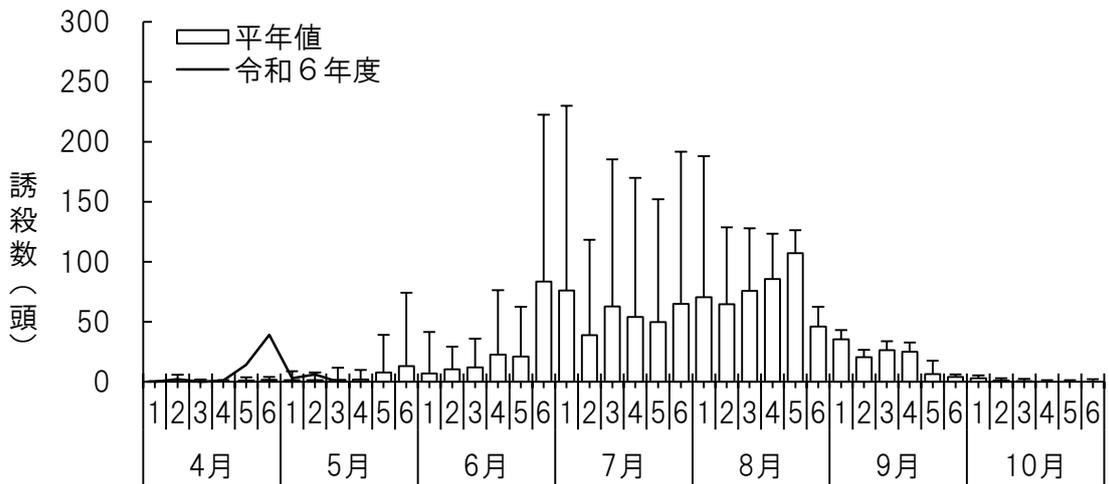


図2 予察灯によるチャバアオカメムシの誘殺数推移 (立川市内)

表1 主な防除薬剤

薬剤名	IRAC	成分名	使用時期 (日)	使用回数	ナシ	ブドウ
スミチオン水和剤40	1B	MEP	14 21	6 6	○有袋 ○無袋	
アーデントフロアブル	3A	アクリナリン	1	3	○	
アグロスリン水和剤		シハ°ルメトリン	1	3	○	
アディオオン乳剤		ベルメトリン	1	2	○	
サイハロン水和剤		シハ°トリン	7	3	○	
スカウトフロアブル		トラロメトリン	1	5	○	
テルスターフロアブル		ビ°フェントリン	1	2	○	
マブリック水和剤20		フルバリネート	30	2	○	
ロディー水和剤		フェン°ロパ°トリン	1	2	○	
アドマイヤー顆粒水和剤		4A	イミダ°クロプロ°リト°	3*1	2	○
アクタラ顆粒水溶剤	チアマトキサム		1	3	○	
アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤	ジ°ノテフラン		1	3	○	○
ダントツ水溶剤	クロチアニジン		1	3	○	○
バリアード顆粒水和剤	チアクロプロ°リト°		1	3	○	
ベストガード水溶剤	ニテンピ°ラム		14	3	○	
モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプロ°リト°		1	3	○	
テッパン液剤	28		シクラニプロ°ロール	1	2	○
パーマチオン水和剤	1B 3A	MEP フェンバ°レート	30	5	○	

\*1 露地栽培においては発芽期から開花期を除く。

注1) 農薬を使用する際は、ラベルの記載事項を確認する。

注2) ピレスロイド剤(3A)は、ハダニ類の発生を助長することがあるので注意する。